

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2022年 12月 1 日号 274 号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【12月の予定】

- ◆12月10日（土）（雨天翌日）
・花広場 整備
- ◆12月24日（土）（雨天翌日）
・中央広場 整備
・納会
- * 9:00 現地集合（9:00～11:30）

- ◆12月3日（土） 中央広場
・輪飾り作り（10:00～12:00）



問合せ：伊藤（735-8623）
どなたでも参加自由です。
作業には汚れても良い服装でおいでください。

【緑地に咲く】ツワブキ（石菘）



キク科ツワブキ属の常緑多年草。落という字を用いますが、フキの間ではありません。葉の形がフキに似ているところからきています。艶菘（ツヤブキ）、艶葉菘（ツヤバフキ）が転訛してツワブキとなつてと言われています。（長谷部）

※※※※※※※※ 緑地だより ※※※※※※※※

11月12日（土） 晴 参加者12名

冬に向かうので、寒暖差のある季節だが、今日は小春日和で、背中に日差しを受けると作業中は暑いくらいだ。

主な作業は、南斜面の草刈り。いつも通り、男性陣の機械刈りと女性陣の手刈りで進める。マンションとの境の金網フェンスには、クズや山芋のつるがしっかり絡まり、意外と時間がかかる。外来種のセイタカアワダチソウがはびこらないように、以前から根こそぎ抜いてきたが、まだまだ残っている。

作業終了後は打合せ。12月16日に鶴川第二小の5年生の授業として、お正月用しめ縄飾り作りを、樹の会で指導することになった。Sさんが中心となり準備が進められ、当日は会員も参加し手伝う。他の日にも、4年生の授業で緑地見学があり、若い世代にも緑地の面白さを知ってもらえると嬉しい。（宮崎）

11月26日（土） 小雨 参加者4名

鶴川二小の5年生に、正月飾り用の稲ワラを柔ら

かくする藁打ちを指導するため、小学校に出張する。道具類を準備するため緑地に集まった4名のうち2名が道具を携えて学校に向かった。

雨は殆ど止んできたので、残り2名は12月3日に実施する正月飾り講習会のため、中央広場の整備をした。（かつた）

11月27日（日） 晴 参加者7名

今日の主な作業は、桜広場の整備でした。晴れた青空のもと、手慣れた二人が、大きく枝を広げた梅の徒長枝（とちょうし）を剪定していきます。すでに、小さな花芽がついています。また、フェンス際のカラムシも刈り取りました。今日もナンテンの赤い実、ムラサキシキブの紫の実、クロガネモチの赤い実、マユミの薄いピンクの実、ムベの赤い実などを沢山見つけました。

Sさんが、3日に行われるしめ縄の輪飾り作りの見本の調整を試行錯誤していました。参加者用のワラも用意できていました。多くの方が参加していただけることを楽しみにしています。3日が晴れますように。（森田）

【緑地を楽しむ本】

『平和へ』

キャサリン・スコール/作 上遠恵子/訳 田沼武能/写真

岩崎書店



今年はどうな年だっただろうと考えると、やはり「戦争」の二文字が私たちの心に重くのしかかるのではないのでしょうか。そんな人々の気持ちを受けて、1995年に出版されたの

ち、しばらく絶版で入手できなかった『平和へ』が増刷されました。今こそ、多くの人に手に取ってほしい本ではないのでしょうか。

平和って、なんだろう？ どうしたら見つけられるの？ そんな素朴な疑問に、友達との身近な事柄を例に挙げながら考えていきます。平和って、生きていくのに必要なものがちゃんとあること、友達や家族から愛されて

安心して生活できること・・・そんな当たり前のことが、戦争では奪われてしまうのだということが、今回の戦争ではっきりとわかりました。もちろん、平和への道はそう簡単には見つかりません。でも、この本で言っているように「心の平和」だけは失いたくないと思いました。

各ページに添えられた世界の子どもたちの写真が、少し重くなった読者の心を明るくしてくれます。子どもたちの何気ない動作や表情、笑顔に、この大切な瞬間を守りたいという気持ちにさせられます。特に赤ちゃんがおっぱいを飲んでいる写真（この赤ちゃんはカメラマンの田沼さんの息子さんだそうです）・・・安心してお乳をあげられる時間こそが、平和な時なのですね。

(小川)

鶴川第二小学校の生徒さんたちが緑地を見学

11月15日(火曜日) 臨時活動 参加者 2名

今日、鶴川第二小学校4年生の生徒30数名が30分ほど緑地見学に来訪したので、緑地作業員2名が案内をする。

生徒たちは先生と保護者に引率され、一列になって緑地内を見て回る。時にメモを取ったり、質問したり、皆真剣な顔をしている。

この活動の目的は、子どもたちが周辺地域の中で、自分達に何か出来ること、役立てる事を見つけ出し、それを地域に還元していくことだ。

緑地にも手付かずの問題は沢山あるし、子どもでなければ気付けない事もあるだろう。

授業の一環としての活動ではあるが、未来を担う子供たち自らが積極的に社会参加することをこれからも応援して行きたい。

(かつた)

- ◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。
- ◆ 「緑地だより」編集：小川 TEL/FAX：796-1801
(ご意見がありましたら小川までお寄せください)

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP (毎月末に更新)
<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>
配信希望の方は、小川まで(ogamariko@gmail.com)

【やまゆ連・手作りカフェ】

花のポップアップカード作り
11月5日(土) 平和台集会所

同じサイズの折り紙2枚(色は不問)を4等分に切り、花びらとなる7片を作ります。7片は全部同じように中央を中心に8等分に折って折り山をつけます。その1つを切り取って捨て、6つの花弁となるように糊付けすると立体的な花びらが7片出来ます。カードとなる台紙を開いたときに横に3つの花びらが並ぶように糊付けをして、その後全体が丸くなるよう上下に2片ずつ糊付けをします。台紙に貼り付けて完成です。

ポイントは、糊付けの面積を小さく、しっかり糊付けることだと思いました。

ポップアップカード作りの前に、来月12月、恒例のお正月用しめ縄作りに使う、稲妻を表す紙垂(しで)を赤い折り紙で作りました。

カフェ: まてばしいどんぐりのケーキ

(斎藤光代)



【緑地の樹】

マルバシャリンバイ(丸葉車輪梅)

プロフィール:バラ科 常緑低木

緑地の桜広場と呼んでいる広場の道路側に1本、どこか奥ゆかしげに枝を広げている。4、5月頃に梅の様な五弁の白い花が枝先に群れるよう咲き、晩秋にはブルーベリーかと思間違うような青紫色の実をつける。耐寒性、耐潮性があるので庭木や海辺によく見られる。緑色のつやつやした肉厚の葉は、車輪状に伸び、卵型で愛らしい。

丸葉車輪梅は、奄美大島では「テーチ木」と呼ばれ、「大島紬」の重要な染料の一つである。テーチを煮出した汁で染めた糸は、茶褐色に染まる。染まった糸を泥田と呼ばれる田んぼの様な沼に80回以上も沈めたり、泥を摺りこんだりする。すると、泥田の鉄分と車輪梅のタンニンが化学反応を起こし、「大島紬」特有の色に染まっていく。光沢のある茶色や、ブロンズ色に染まった糸で織った布は、落ち着いた品のいい色合いの衣服へと変身していく。1300年の歴史をもつ技術とそれを継承する文化は、奄美の人々にとってどれほど高い価値を持つのだろう。

緑地の丸葉車輪梅は、20年ほど前に、Sさんの家の庭から移植されたものだ。たった一本の木にも様々なドラマや歴史がある事をこの木は教えてくれている。

(かつた)

